

## 近代における西欧の優越という現象はどうして生じたか

### I. 西欧の優越という現象

- ・ 西欧は斜陽化したといわれるが、今でも西欧起源の制度・仕組み（議会制民主主義、資本主義的経済体制、自由貿易主義）が現在の世界の主流となっており、また西欧的価値観（自由・平等、基本的人権の尊重、法の支配）が多くの国で受け入れられている。
- ・ 日本の学問（法学、経済学、哲学、科学、医学等）や産業・技術も殆どが西欧から輸入されたものである。
- ・ 17世紀までは、アジア諸国の方が西欧に経済や文化の面で勝っていた。
- ・ 19世紀になると、アジア諸国は西欧に敵わなくなってしまった。どうしてこういう現象が生じたのであろうか？

### II. 西欧の優越が生じた理由・原因についてのいろいろな説明

- ・ 生物学的説明 白人が人種的に優秀だから
- ・ 社会学的説明 西欧にのみ「都市」と「ブルジョワジー」の勃興がみられた
- ・ 法制度的説明 西欧にのみ「私的所有権」及び「特許制度」の確立がみられた
- ・ 科学技術的説明 西欧近代における科学・技術の発展が優越をもたらした
- ・ 宗教的説明 資本主義発展に適合的な精神的態度（プロテスタンティズムの倫理）が生み出されたから

これらはいずれも独断的であったり、一面的である。

私見によれば、西欧の優越をもたらしたものは、資本主義の興起、近代科学の発展によるものであり、前者は新大陸及びアジアからの収奪による資本蓄積により可能となり、後者はアラビアから科学を学んだことによるもので、いずれにせよ自生的

- ・ 内発的なものではない。加えてそれらを生み出した精神的バックグラウンドがあり、これも重要である。

### III. 西欧における資本主義の興起

1. 資本主義的生産を起動させるためには、まず「資本」が必要である。西欧はこの資本をどこから得たのか？ 通常の商取引では資本を蓄積し、大規模な投資に足りる

ような利益を得ることは難しい。不等価交換による莫大な不当利益が資本蓄積の源泉となった。この不等価交換を可能ならしめるのは

- ・遠隔地取引
- ・植民地原住民又は奴隷による正常なコスト以下での生産

である。これらは新大陸及びアジアからの収奪で可能となった。

## 2. イギリスの資本蓄積の源泉

### (1) 新大陸からの収奪

- ・奴隷労働による砂糖プランテーション経営による利益  
(参考) 奴隷制度を許容する精神的背景
- ・キリスト教的世界観 神—人間—人間以外の動物・植物・自然
- ・聖書における「ノアの呪い」
- ・アリストテレスの理論 生まれながらに奴隷に適した人間がいる

### (2) インドからの収奪

#### a. 地稅徴収

1765年東インド会社はムガル皇帝からベンガル地方の地稅徴収権を得た。一定額を納めた後は自分のものに出来たので、インド農民を苛斂誅求して得た金で、謂わば「ただで」インド綿布を買い、輸出した。

#### b. インド綿工業の破壊

インドは2000年の長きにわたり、世界最大・最良の綿糸・綿布の生産国・輸出国であった。イギリスの綿工業はインドに太刀打ちできなかったが、機械の発明により品質・価格面で対抗出来るようになるとあらゆる手段を使ってインド綿工業を圧迫し、これを撲滅して、インドをイギリス綿工業の最大の市場に変得た。

#### c. 鐵道建設

インド人民の血稅でイギリスの鉄工業・機械工業の為の鐵道を建設した。

#### d. プランテーション

従来自給自足であったインドの農業生産・農村工業を破壊し、阿片・紅茶・綿花・藍・亜麻等の単一作物だけを生産するプランテーション經濟に変えた。

### (3) 中国からの収奪

イギリスでの紅茶を飲む習慣の普及に伴い、東インド会社は中国から紅茶を輸入したが、その対価は銀であった。銀の流出を避けるために、インドで阿片を栽培し、これを中国に輸出した。この結果中国から逆に銀が流出するようになり、阿片の害とともに中国政府は放置できなくなった。中国政府の阿片輸入禁止に対し、イギリスは戦争を仕掛け、阿片輸出を認めさせた。—阿片戦争

## IV 西欧近代科学

今までに人類が成し遂げた革命 農業革命、都市革命、哲学革命、科学革命、産業革命、情報革命

最初の三つは各地域で同時並行的に起こったが、科学革命は西欧でのみ起こり、この土台の上に産業革命、情報革命が起こった。

然し、科学革命は西欧で内生的・自発的に起こったのではなく、アラビア科学を学ぶことによって可能となったのである。

#### 1. ギリシアの科学

- ・イオニアの自然哲学、ピタゴラスの数学、アリストテレスの自然学
  - ・アレキサンドリアを中心とするギリシア科学の黄金時代—プトレマイオスの天文学、ユークリッドの幾何学、アルキメデスの物理学、ガレノスの医等
- ギリシアの科学は東ローマ帝国—シリアを経てアラビアに伝わった。

#### 2. アラビア科学の隆盛

アッバース朝の歴代カリフは科学を奨励し、多くのギリシア科学の文献がアラビア語に翻訳され、バグダッドを中心にアラビア科学の隆盛を迎えた。

#### 3. アラビア科学の衰退

- ・モンゴルの征服の影響（1258年バグダッド陥落）
- ・宮廷依存のため支配者が興味を失うと衰退
- ・イスラム教—異質な発想・思考を許さない。

#### 4. アラビア科学を学んだ西欧

十字軍や東西貿易の再開によって西欧はアラビア文明に接し、その高度さに驚き、また自分たちの立ち遅れを自覚し、必死になって取り入れようとした。

- ・アラビア語文献をラテン語に翻訳してギリシアの科学を学んだ。
- ・アラビア数学（ギリシアの幾何学とインドの代数学）、アラビア数字、零、位取り法
- ・実験による検証という考え方
- ・錬金術—化学
- ・医学 17世紀までは西欧の医学はアラビア医学の受け売りだった。

#### 5. 西欧近代科学の勃興

12世紀から始まったアラビア語文献の翻訳によるギリシア・アラビア科学学習から400年の蓄積を経て、17世紀に科学革命が開花した。

物理学 ガリレオ、ニュートン

数学 ニュートン・ライプニッツの微積分学、デカルトの解析幾何学

医学 ハーヴェイによる血液循環説

17世紀の科学革命及び科学的知見を技術に結び付けることにより、産業革命を生み出し、他地域に比べて圧倒的優位に立つことが出来た。

#### 6. 西欧近代化科学を生み出した精神的背景

- ・キリスト教的世界観 神が創造したこの世界には整然とした秩序があるはずであり、それを見出すことは神の栄光を高め、証明することである。
- ・ピタゴラス・プラトンの世界観 世界は数学的秩序の下にある。
- ・脱呪術化 自然現象を神々や諸霊の活動・意思によってではなく、合理的に説明

## V 西欧の優越をもたらした精神的要素

然し、ことをなすのは人間であり、西欧人には東洋人には無かったメンタリテイがあり、資本主義の興起、近代科学の発展に適合的な精神的バックグラウンドがあったと思われる。但しこのことは西欧人が人種的に優秀であったということではない。

### 1. 合理主義の精神

全てのことを理詰めに考え、「何故そうなのか?」「何故そうなるのか?」をとことん考え、追求し、そうでないと納得しない。物事の根底に法則性を求め、普遍的法則を見出そうとする。

西欧人が生まれつき、人種的にこういう考え方を身につけていたわけではない。彼等は中世以前には未開・野蛮な民族であった。

彼等は、アラビアを通じて古典ギリシアの哲学・思想・科学を学び、啓発されたのである。

それでは「何故ギリシアで合理的思考が生まれたのか?」というと、「ギリシアの人類史的奇跡」としか言いようがないように思える。ギリシアのあの明るい風光に接すれば、何事も曖昧なままでは済まらず、明晰でなければならないという思想が生まれるのは無理もないと思われる。

### 2. Rule of Law

「法の支配」と訳されるが、「法による支配 (Rule by the law)」とは異なる。「統治する者」も「統治される者」も等しく、「法」の支配下にあり、「法」に従わなければならないという考え方である。

このような考え方はギリシアの都市国家で発達し、ローマに受け継がれ、ゲルマンの戦士社会に受け入れられた。この考え方は

- ・何か事を為す時にまずルールを決める。ルール決定には、関係者が平等な権利で参加する。決めたルールには全員が従う。ということであり、
- ・ルールから逸脱しない限り、そのルールの下で各人は自由に考え、行動し、能力を伸ばすことが出来る。
- ・社会の関係・組織は機能的関係としてとらえられ、支配・服従の関係ではなく役割分担的なものとなる。

こうした精神的態度が西欧文明を発展させる原動力の一つとなった。

### 3 ファウスト的情熱

あくなき認識欲・知識欲・支配欲・権力欲・所有欲は西欧人の特徴の一つであり、この性向はゲーテの「ファウスト」の主人公の性格・行動から「ファウスト的情熱」と言われる。

以上